

猛暑の天王寺動物園

名古屋に住んでいたころ、自宅からも近かったので、東山動植物園によく出かけた。パスポート券を買い、毎週日曜朝に散策したことも。お目当ては北園のオランウータンやゴリラ、チンパンジーだ。人気の「イケメン」ゴリラのとなりで、しょぼくれているオランウータンが、何とも味わいがあり、じっと見つめあった。植物園も散策コースとして、お気に入りだった。



猛暑のなか、大阪の天王寺動物園にはじめて行った。近くの新世界にはよく行くが、どうも動物園には足が向かなかった。久しぶりに動物の顔が見たくなり、ジャンジャン横丁を抜け、通天閣を眺めながら「新世界ゲート」から動物園に向かった。



「アフリカサバンナ」コーナーに、キリンやシマウマなどが、のんびり過ごしていた。キリンの向こうには「あべのハルカス」が見えた。キリンはこんな高いビルをはるか近くに眺めて、どんな気持ちなのだろう。



ライオンをガラス越しに見ることができた。眠るところを邪魔するなど言いたげな様子であった。「夜行性動物舎」は真っ暗であり、歩くのに苦労したが、コウモリが飛びかっていた。オランウータンに会いたかったが、とにかく暑いので、またの機会に。



帰宅して案内図を見ると、オランウータンは「オラン」ようだ。つい「ウー」たんと。

大阪のど真ん中の「街なか」動物園であるが、展示など工夫しており、なかなか面白かった。ジャンジャン横丁の帰りに、ゆっくり動物園を散策してみることにしよう。

「てんしばゲート」から動物園を出たが、じつは「てんしば」も初めてだ。案内には次のように書かれている。一約 7000 平方メートルの芝生広場を中心に、公園に新たな魅力をもたらす多彩な施設（レストラン・カフェ・コンビニ・フットサルコートなど）があります。各施設は、公園風景に調和した開口部の広い開放的な木造建築となっており、屋内の賑わいが屋外空間に広がるとともに、屋内外で、公園ならではの緑豊かな景観を満喫できます。

「緑豊かな景観」などと、よく言うなと言いたくなる。こんな空間は、「公園」ではない。芝生の広場はあるものの、レストランなどが立ち並ぶ「ミニ商店街」のようだ。「維新政治」のもとで、近鉄不動産が運営管理するようになり、公園が変身を遂げた。「公園は誰のもの」なのか。公園という公共空間のあり方を問いたい。

(2019年8月2日)